

放射線科後期研修プログラム

1. はじめに

放射線医学は、放射線治療、画像診断、IVR、核医学の4部門から構成されています。当院の後期研修プログラムは、卒後臨床研修終了後、放射線医学の広範な知識を深め診療手技を学ぶための研修プログラムです。当院は多くの悪性腫瘍患者の治療にあたっています。放射線科は、診療各科との連携のもと画像診断、IVR、放射線治療を幅広く実践しています。また、当院放射線科は放射線科専門医修練協力機関として認定されています。

2. 研修目標

1. 単純X線写真、CT、MRI、核医学の原理適応を理解し、検査手技を修得し、画像読影研修を行う。(画像レポートは全例指導医のチェックを受ける。)
2. 上部下部消化管検査の適応を理解し検査手技を修得し、読影研修を行う。
3. 各種造影剤に関する知識や副作用・禁忌などを学び、造影手技を習得する。
4. 血管造影、IVRの適応を理解し検査手技を研修する。
5. 放射線治療の適応を学び、治療計画立案を研修する。

3. 研修項目

X線検査

1. 単純撮影

撮像法の原理(コントラスト、鮮鋭度、CR、画像処理、階調・周波数処理)

検査適応と撮影法(高圧撮影、軟線撮影、眼窩、聴器の撮影法)

2. 造影検査

種類と適応（経静脈性尿路造影、逆行性腎盂尿管造影、膀胱造影、排泄性膀胱尿道造影）

CT

1. 原理と検査技術

マルチスライス CT、ヘリカル CT、高分解能 CT

2. 造影 CT 手技

造影の適応、造影法、造影剤動態

MRI

1. 原理と検査技術

スピンエコー法、グラディエントエコー法、エコープラナー法、脂肪抑制法、T1 時間、T2 時間、chemical shift

2. 単純 MRI、造影 MRI、ダイナミック MRI、MRA、MRI hydrography、適応と原理、信号強度、T1、T2、Proton 密度強調画像、高低信号域、造影効果、造影法と造影剤動態、time of flight 法、phase contrast 法、造影 MRA、MRCP

核医学

1. 放射線物理学、放射線生物学、放射線障害、RI 測定装置、RI 安全取り扱い

2. 核医学診断各論

消化管検査

1. 上部消化管造影

種類と適応、手技、読影研修

2. 小腸造影

種類と適応、手技、読影研修

3. 注腸

種類と適応、手技、読影研修

血管造影、IVR

1. 血管系治療

適応、手技、塞栓術、塞栓物質、血管拡張術、ステント留置、

動注療法、下大静脈フィルター、血栓溶解術

2. 非血管系治療

CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ

放射線治療

1. 放射線の量と単位、放射線の物理学、生物学的作用の理解、放射線による

正常組織の反応と障害

2. 放射線治療の種類と方法、患者の診察、放射線治療計画の立案

4. 放射線科診療実績(平成 16 年度)

現有放射線機器

MRI (1.5T) : 2 台

CT : 2 台 (64 列 MDCT1 台、4 列 MDCT1 台)

Angio 装置 : 1 台

2 検出器型ガンマカメラ : 1 台

X 線テレビ : 3 台

放射線治療装置 : 1 台

撮影件数、治療件数

一般撮影 : 54140 件

CT : 11196 件

核医学 : 1433 件

MRI : 6343 件

血管造影 : 577 件

放射線治療 : 288 名 (年間新患者数)

4 , 院内カンファレンス

火曜日

産婦人科領域画像カンファレンス

木曜日 (隔週交代)

消化管カンファレンス

肝胆膵カンファレンス

5 , 指導スタッフ

診療科医師数 常勤 4 名

指導責任者 ;

山本道教 診療科部長 日本医学放射線学会専門医

指導医 ;

道家哲哉 日本医学放射線学会専門医 日本血管造影 IVR 学指導医

松原伸一郎 日本医学放射線学会専門医

三森天人 日本医学放射線学会専門医